

### 32. 経営規模拡大希望林家の持つ諸条件

鹿児島大学農学部 山 添 精 三

林業経営基盤の拡大は林業構造改善事業の内でも根本的なものであり、また前提条件とも言い得るものである。昭和38年、39年に、林業構造改善に関連して、鹿児島県下6町村において実態調査を実施した。その調査の一部として、それらの町村の森林所有者全戸に対してアンケート調査を行ったが、その結果について、

林家を林業経営規模（経営面積）拡大を希望するものと、縮小または現状維持を希望するものに区分して、この両者について種々の事項について比較考察を行った。

(1) 経営規模拡大希望林家と縮小または現状維持希望林家の戸数と割合（第1表）

第 1 表

町 村	拡大希望林家数 (A)	縮小または現状維持希望林家数 (B)	計	割 合		備 考
				(A)	(B)	
川 辺 郡 大浦町	290	535	825	35%	65%	本年より構造改善事業実施  本年より構造改善事業実施
薩 摩 郡 薩摩町	691	328	1,019	68	32	
鹿児島郡 吉田村	472	561	1,033	46	54	
肝 属 郡 田代町	318	268	586	54	46	
始 良 郡 牧園町	469	723	1,192	39	61	
日 置 郡 吹上町	308	963	1,271	24	76	

第1表において、拡大、縮小、あるいは現状維持の意思表示の不明なもの除外した。なお縮小または現状維持のもの内、前者は非常に少なく、大部分後者である。従って薩摩町、田代町を除いて、現状維持の林家の多いことが判る。このことは経営規模拡大のため必要とする林地購入資金の乏しいことに一つの理由が考えられる。

第 2 表

町 村	林家の内、耕地0.5ha以上経営するものの割合	拡大希望林家の内、耕地0.5ha以上経営するものの割合	縮小または現状維持希望林家の内、耕地0.5ha以上経営するものの割合
大浦町	37%	46%	32%
薩摩町	73	78	61
吉田村	49	57	43
田代町	67	76	57
牧園町	62	73	54
吹上町	43	56	39

(2) 経営規模拡大希望林家及び縮小または現状維持希望林家の内、耕地の0.5ha以上経営するもの（第2表）

経営規模拡大希望林家には比較的耕地面積の大なるものが多い。これは農業所得の大なる階層が林業経営にも積極的意欲を有し、また長期生産の育林事業に投資する経済的余裕のあることを示唆するものと考えら

第 3 表

町 村	林家の内、林野1ha以上所有するものの割合	拡大希望林家の内、林野1ha以上所有するものの割合	縮小または現状維持希望林家の内、林野1ha以上所有するものの割合
大浦町	10%	13%	8%
薩摩町	37	40	32
吉田村	20	20	19
田代町	40	40	39
牧園町	44	46	42
吹上町	29	34	28

れる。

(3) 経営規模拡大希望林家及び縮小または現状維持希望林家の内、林野1ha以上所有するもの(第3表)

大浦町は所有林野面積の零細な林家が特に多いが、その他の町村においても同様である。従って経営規模拡大希望林家も縮小または現状維持希望林家も小規模林業の経営者であるが、前者の方が後者より経営規模の大なるものの割合が大である。しかし一方小規模であるから拡大しようとする林家の多いことと、小規模であるが、何かの理由によって縮小または現状維持しようとする林家の多いことも判る。

なお拡大を希望する林野面積は比較的小さく、大浦町、薩摩町、吉田村、吹上町において5~10ha、田代町、牧園町では5ha程度までのものが多い。

(4) 経営規模拡大希望林家及び縮小または現状維持希望林家の内、人工林率50%以上のもの(第4表)

第4表

町 村	林家の内、人工林率50%以上のものの割合	拡大希望林家の内、人工林率50%以上のものの割合	縮小または現状維持希望林家の内、人工林率50%以上のものの割合
大浦町	41%	37%	44%
薩摩町	23%	25%	18%
吉田村	44%	47%	40%
田代町	63%	66%	60%
牧園町	36%	38%	35%
吹上町	35%	36%	35%

大浦町を例外として、各町村とも人工林率50%を超えた林家は、経営規模拡大を希望するものの方が縮小または現状維持希望のものより、その割合は大である。すなわち造林熱心なものの割合は前者の方が多いとすることができる。

(5) 経営規模拡大希望林家と縮小または現状維持希望林家の家族農林労働力(15才以上)(第5表、第6表)

経営規模拡大希望林家と縮小または現状維持希望林家と比較した場合、平均1戸当家族農林労働力は前者

の方が大である。また両者の家族農林労働者の内、20才~59才のもの占める割合を見た場合、男女とも拡大希望林家の方が薩摩町的女子を除いて(ただし田代町の男子は両者とも同じ)、いずれも大である。従って拡大希望林家は家族農林労働力の量においても、質においても、縮小または現状維持希望林家より優れているとすることができる。

以上の結果から、経営規模拡大を希望する林家は耕地面積、林野面積の比較的大なるもの、そして人工造林が比較的進んでおり、また家族農林労働力の比較的多い世帯に多く見られる傾向が強い。すなわち経済力、労働力に余裕があり、かつ林業経営に対する意欲のある林家が林業経営規模拡大に関心と熱意を示すものと言えよう。

第5表

町 村	林家1戸当家族農林労働者数	拡大希望林家1戸当家族農林労働者数	縮小または現状維持希望林家1戸当家族農林労働者数
大浦町	1.9人	2.1人	1.8人
薩摩町	2.2	2.4	1.9
吉田村	1.7	1.9	1.6
田代町	2.0	2.2	1.7
牧園町	2.0	2.2	1.9
吹上町	1.7	2.0	1.7

第6表

町 村	拡大希望林家の家族農林労働者の内、20才~59才のもの割合		縮小または現状維持希望林家の家族農林労働者の内、20才~59才のもの割合	
	男	女	男	女
大浦町	60%	76%	55%	56%
薩摩町	71%	75%	70%	76%
吉田村	71%	75%	56%	65%
田代町	83%	85%	83%	84%
牧園町	75%	80%	68%	74%
吹上町	66%	73%	55%	66%